

ご好評により5回目！『大阪』『東京』にて開催！

※大阪会場、東京会場の講義内容は同じとなります。ご都合がいい会場・日程でご参加ください。

【研究企画部門・研究開発部門・知的財産部門、管理職向け】

「技術の目利き」を集団的に育成し、事業強化・新規事業のためのコア技術の創出を実施し続ける技術経営モデルの構築手順

【開催要領】 ※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせていただきます。

日 時▶2017年3月3日(金) 13時-17時 日 時▶2017年3月16日(木) 13時-17時

会 場▶ホテルコンサルト新大阪(大阪:西中島) 会 場▶企業研究会セミナールーム(東京:麹町)

【開催にあたって】

【概要】このセミナーは研究開発部門の企画者・幹部向けの自社の「技術経営モデル」を構築するための考え方を解説する講座です。ユニークなテーマ提案をしたとしても会社に採用されない事例等に触れ、その背景にある真の課題を解説します。その上で、自社独自の技術経営モデルを研究開発部門全員の共通認識としたテーマの創出方法:評価方法がなければ、「技術の目利き」を育成してテーマ創出はできないことを解説します。【特徴】高収益が継続している技術企業には、その仕組み「技術経営モデル」があります。技術経営モデルがしっかりしていれば、継続的にアイデア・テーマ・知財が創出できて、価値創出と高収益が両立します。一方しっかりしていなければ、テーマはマネージャーに潰されてアイデアは死蔵し、短期テーマが優先されます。この現実の背景にある真の課題を解説する方法を解説します。【効果】自社の研究開発マネジメントの課題を明確化し、根本的に解決するための方法論が理解できます。研究開発部門全体を巻き込んで変革する方法を理解できます。【オスメの受講者】テーマを考案するミッションをお持ちの研究企画部門の方、会社全体の技術戦略を考える経営幹部の方、研究開発の幹部の方

講 師 高収益企業支援家・弁理士 中村大介氏(株式会社如水 代表取締役)

講師紹介
全員経営による技術企業の高収益化の専門家。事業を模倣されて利益率が低迷した経験、社員の離反を招いた経験から継続的な組織成長の仕組みを模倣、継続的な組織成長の仕組みは、社員の自発・自律・自治を促す学習と実践(会議)である事に気づき、「全員経営会議」として体系化。現在は全員経営会議の提供や、技術企業の高収益化のコンサルティングを通じて、社員の自己成長を促しつつ組織成長を実現する企業を支援している。クライアント企業では、売上が短期間に2倍になったケース、知財出願ベースが3倍になったケース、有望研究開発テーマが多数立案されたケースがある。専門は技術企業の高収益化。北海道大学卒業・東京大学大学院修了。日経テクノロジーのコラム「知財で築く真田丸」連載中

【申込書送付先】 FAX▶03-5215-0951 ※当会 HP からもお申し込み頂けます。 企業研究会Q 検索

■受講料:1名(税込・資料代含) ※申込書をFAXでご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

正会員	34,560円(本体価格 32,000円)	一般	37,800円(本体価格 35,000円)
-----	-----------------------	----	-----------------------

希望会場に「✓」をご記入下さい。

	大阪開催 (3/3) 161821-1010	東京開催 (3/16) 161823-1010
ふりがな 会社名		
住 所		
TEL	FAX	
ふりがな ご氏名	所 属 役 職	
E-mail		

※申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

■参加要領:申込書はFAX、または下記担当者宛E-mailにてお送り下さい。当会ホームページからお申し込み頂けます。後日(開催日1週間前~10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問(FAQ)は当会HPにてご確認いただけます。〔TOP〕→〔公開セミナー〕→〔よくあるご質問〕

※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。

■お申込・お問合わせ先: 企業研究会 公開セミナー事業グループ 担当/民秋・川守田 E-mail:tamiaki@bri.or.jp

TEL:03-5215-3514 FAX:03-5215-0951 〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 麹町M-SQUARE 2F

・プログラム

1. 世の中の研究開発部門で起こっていることとは?

- (1) 経営者の期待と研究開発マネジメントのパラダイム変化
- (2) 研究開発テーマの評価方法
- (3) 望ましい研究開発テーマ評価・育成体制とは?
- (4) 企業としての研究開発ポートフォリオ/研究で実施すべきテーマ
- (5) テーマ評価の問題の所在

2. 技術経営モデルとは何か?

- (1) 自社独自の価値創出パターンを「ビジョン」として表現する
- (2) セットメーカーの技術経営モデルの図式化
- (3) 材料メーカーの技術経営モデルの図式化
- (4) 技術の目利きのインプットをきちんと設計する
- (5) 研究企画力には情報の中でも有用情報に基づくひらめきが必要
- (6) 研究開発の成果は知財でもある
- (7) 当面のゴール:研究企画書の項目を書く理由や背景を論理的に説明できるようにする
- (8) 人の創造:資源/学習/競争のそれぞれの技術経営学を理解する
- (9) 要点

3. 技術経営モデルに沿ったアイデアを創出するためのインプットを設計する

- (1) 基本的な考え方
- (2) ノーインプット、ノーアウトプットの原則
- (3) アイデアのためのインプット:顧客トレンド
- (4) ポイント

4. 技術経営モデルに沿ったアイデアをテーマにする

- (1) テーマ企画書の内容
- (2) テーマ企画書は何のためにあるのか?
- (3) やりたい気持ちを設計する
- (4) 技術テーマ企画書はフォーキャストになりがち、そしてその弊害は・・・?
- (5) バックキャストという未来予想の手法について
- (6) やりたいことを論理だてるための情報の未来予想
- (7) テーマ企画書の例
- (8) ポイント

5. 新規技術を獲得して既存事業の差異化につなげる技術経営モデル

- (1) プリチストンのリトレッド:技術的選択肢の創造
- (2) コマツ提供するKOMTRAX:技術的選択肢の創造
- (3) 必要な知財の買収による獲得:基本特許の獲得による応用範囲の拡大
- (4) コア技術の棚卸し 事例
- (5) 異分野技術獲得で重要なことは?
・技術の幅と深さを価値創出につなげる技術経営モデル - キヤノン
・技術のショーケース化により価値創出につなげる技術経営モデル - 3M
・潜在課題の解決に優れた技術経営モデル - キーエンス
・コストリーダーシップを実現する技術経営モデル - ファナック

6. 自社独自の技術経営モデルによる、技術の目利きの集団的育成の進め方

- (1) 研究開発テーマは、そもそもどのようなものか?
- (2) 研究開発テーマをどう評価するか?
- (3) 技術経営モデルの導入に関して、会社への信頼と人間関係は重要なポイント
- (4) ビジョンに基づく技術経営人材の人材像と人材育成計画
- (5) 技術経営の正しい理解と会議のモードの切り替え
- (6) 基本的な進め方:対話を通じた共有・共創の場の設定
- (7) ベンチマーキングによる改善点の共有化
- (8) よくある進め方のパターン
- (9) ワーキング・グループの検討・巻き込みの範囲を拡大する
- (10) 主体的な気持ちを起こすために必要なことは?
(11) 事例

まとめ

※最少催行人数に満たない場合、開催中止となる場合がございます。

裏面もご覧下さい! 一枚のパンフレットで 2種類のセミナーをご案内しております。